アメリカから見た名古屋空襲(2)

b.建物

目標地域の外側に隣接する密集度の高くない部分を含めても、1938 年の最新版の建築物統計によれば､名古屋の建物の 95%以上が木と漆喰でできていると評価されている。名古屋は最低限度の都市計画により発展を遂げ、またここ 10 年間のあまりに急激な工業の伸長のために、工場地帯に近接して労働者の居住区が雨後のタケノコのように広がった。さらに新しい軍需工場でも鉄筋コンクリートや鉄骨構造はほとんど用いられていないと報告されている。これらの新しい工業は、概して鉄筋の入っていないコンクリートの壁やアスベストの屋根をもつ平屋の建物が多い。

米軍に爆撃を受けた後の三菱重工業株式会社名古屋航空機製作所（昭和19年頃）

三菱重工業株式会社提供

c.道路のプラン

道路の広がり具合はひどく散漫であるが､交差点では大体直角に交わっており､また、市街地を貫流する数本の運河や河川、新しく造られた 2、3 の大通りがそれらを横切っている。これらの舗装された新しい幹線道路は名古屋を遠隔地の軍需工場や本州の北岸と結びつけている。

3 重要性

名古屋は現在、近郊も含めて推定で 150 万人の人口を擁し、人口では国内第 3 位にランクされている。名古屋は日本の 3 大工業地帯の一つであり、日本の航空機工業の最大の中心である。名古屋の全労働者の 25%が航空機生産の何らかの工程に従事していると見積もられている。重要な日本の航空機生産の攻撃目標（番号 193、194、2010／198、1729(注 目標番号は、順に三菱重工業名古屋発動機製作所、三菱重工業名古屋航空機製作所、愛知航空機熱田発動機製作所 愛知時計電機船方工場、愛知航空機永徳工場を指す)）が市内にあり、他の目標（著名なものとしては 240、183３（注 それぞれ川崎航空機岐阜工場、三菱重工業各務原格納庫を指す)）も市の北の方角の各務原にある。東の挙母や南西の桑名、北の岐阜などの衛星都市も、名古屋に集中される工場の複合的な生産工程の一部を構成しており、その結果、いま挙げたような攻撃目標は、日本軍戦闘機及び戦闘機のエンジンの全生産のおよそ 40～50%前後を占めるものと評価されている。名古屋地区はまた、工作機械、ベアリング、鉄道車両、合金、戦車及び自動車、加工食品の生産地という点でも重要である。名古屋は本州の他の大工業都市ほどには港湾設備が整っていないにもかかわらず、それでもなお重要な港である。名古屋港は

1 万トンの船舶 38 隻を扱うことができると報告されており、また最近の改修によりおそらくは、この能力は高められているであろう。

第 2 項で説明した目標地域に対する焼夷弾攻撃の成功は、この地域を東日本と西日本と結びつけるこの国の中軸的な鉄道によるきわめて重要な貨物輸送を破壊し、遅延させるであろう。これは、名古屋及びその周辺に集中される航空機及びその関連産業に最も直接的な影響を及ぼすのみならず、他の戦争遂行に欠くことのできない諸活動にも深刻な影響を与えるであろう。市街地に隣接する過度に燃え易い部分に広がった火災は、日本の戦時産業にとって致命的な重要性をもつ数多くの攻撃目標をも包み込むであろう。

4 照準点

照準点は野戦命令において指定される。

(2015年7月7日)